

『ホワイト・クリスマス』(White Christmas) は、1954 年のアメリカ合衆国の映画。テクニカラーによるミュージカル映画で、ビング・クロスビーとダニー・ケイが主演し、主題歌「ホワイト・クリスマス」をはじめアーヴィング・バーリン作品の歌がフィーチャーされた。監督はマイケル・カーティス、主演の 2 人の相手役としてローズマリー・クルーニーとヴェラ＝エレンが共演した。

あらすじ

かつてブロードウェイのスターだったボブ・ウォレス(ビング・クロスビー)と、芸人の卵フィル・デイヴィス(ダニー・ケイ)は、第二次世界大戦の戦友。1944 年のクリスマス・イブ、ヨーロッパの某所で話は始まる。前線で、ボブ・ウォレス大尉はフィル・デイヴィス一等兵に手伝わせて兵士たちにショーを見せけている(「ホワイト・クリスマス」がフィーチャーされた場面、以下同様)。ショーの最後に、トマス・F・ウェイヴァリー少将(ディーン・ジャガー)が到着して、前線視察を行い、ハロルド・G・コ克蘭將軍(ギャビン・ゴードン)から司令官の任を解かれたことを告げる。兵士たちは盛大な送別をする(「The Old Man」)。敵軍の砲撃の中、フィルは、崩れ落ちて来た壁からボブを救い、腕に軽傷を負う。フィルは「負傷した」腕をネタに、「特別な義務」は何も期待しないと言いながら、戦争が終わったら一緒に 2 人組で演芸をやるようボブを説得してしまう。フィルが腕の傷を使って、ボブに自分が望むことをさせようとするというパターンは、映画全体を通して繰り返される定番のネタになっていく。

戦後になり、2 人はナイトクラブやラジオ、そしてブロードウェイで成功する。人気は沸騰して、プロデューサーにまで出世し、『Playing Around』というニューヨークのミュージカルを大ヒットさせる。ブロードウェイで 2 年間の公演をした後、12 月の半ばに、このショーはフロリダに公演地を移していた。2 人はフロリダ劇場での公演中に、旧知の戦友から、妹 2 人をオーディションしてほしいという手紙を受け取る。オーディションのためにクラブへ行くと(「Sisters」)、姉ベティ(ローズマリー・クルーニー)は、手紙は妹ジュディ(ヴェラ＝エレン)が出したものだとバラしてしまう。ボブとフィルは、ベティとジュディが大家と保安官から逃げるのを助ける(大家は姉妹が 200 ドルの敷物を焼いてしまったと訴えていた)。姉妹を列車に逃がす間に、ボブとフィルは「Sisters」をレコーディングする。フィルは姉妹に、自分とボブが使うはずだった列車の切符を渡す。ボブとフィルが列車に着いた時、2 人には切符がない。フィルは腕の傷のネタを使ってボブを説得し、休日を過ごしに行くバーモント州まで姉妹を同行させる(「Snow」)。バーモント州のパインツリー(Pine Tree、架空)へ来た一行は、かつての司令官ウェイヴァリー將軍が当地のコロムビア・インという宿を経営しており、雪不足から客足が遠のいたために宿が倒産寸前であることを知る。將軍は、貯金と年金のすべてを、この宿への投資に注ぎ込んでいた。

この窮地を救おうと決心したウォレスとデイヴィス(ボブとフィル)の 2 人は、『Playing Around』をブロードウェイのキャストのまま当地へ持ち込み、そこにできる限りベティとジュディを加えることにする。ボブは、將軍が陸軍への復帰を希望しながら拒絶されていたことを知り、將軍が忘れられた存在ではないことを証明しようと決意する。

ボブは、陸軍のかつての戦友で、今ではテレビ番組(意図的に『エド・サリヴァン・ショー』そっくりにしてある)の司会者として成功しているエド・ハリスン(ジョニー・グラント)に電話をして、將軍の下で戦ったすべての戦友たちにこのショーのことを告知したいと頼む。ハリスンは、全員で出かけて、その様子をテレビのショーに乗せると応じ、そうすれば將軍の状況も加味されてウォレスとデイヴィスの宣伝にもなるだろうと言う。このやり取りだけを立ち聞きした家政婦エマ・エレン(マリー・ウィックス)は、これをベティに知らせる。ボブは、エド

に、そういうつもりではなく、部隊に所属したできるだけ多くの仲間に、クリスマス・イブにパインツリーへ来てほしくて告知をするだけだと告げる。ボブの意図を誤解したベティは、2人を近づけようとしたフィルとジュディが偽装婚約をしたのも空しく、ニューヨークのカルーセル：クラブの仕事のためパインツリーを離れてしまう。

ボブは『エド：ハリスン：ショー』に出演し、ニューイングランドに住む第 151 師団の退役兵全てに、クリスマス・イブにはパインツリーへ集まるよう呼びかけた。

『エド：ハリスン：ショー』のボブの告知を見て、ベティは誤解を解く。パインツリーへ向かった彼女は、クリスマス・イブのショーにちょうど間に合うことができた。一方、スーツがみんなクリーニングに出ていると思い込まされたウェイヴァリー将軍は、仕方なく古い軍服を着るしかないと考える。ショーが催される宿のロッジに将軍が入ると、かつての部下たちが「We'll Follow the Old Man」を大合唱して歓迎する。程なくして雪が降り始めたことが知らされる。

印象深いフィナーレでは、ボブとベティが愛を告白し、フィルとジュディも同様である。ショーの背景が取り外されるとパインツリーには待望の雪が降っている。皆がグラスを挙げ、「あなたの日々が陽気で明るいものでありますように、そして、あなたのクリスマスが白く雪に包まれますように」と歌いながら乾杯する。